

奥積雅彦（総務省統計研究研修所教官）

本邦初の統計用語辞典を編集した杠文吉

1 統計用語に関する辞典

ある統計用語を調べるべく国立国会図書館デジタルコレクションにおいて、統計用語に関する辞典の類を探索したところ、最も出版年が古いものとしては、杠文吉編「統計用語辞典」（昭和24年（1949年）出版）に出会いました。その後、昭和26年（1951年）出版の統計学辞典編集委員会編（中山伊知郎 他）「統計学辞典」、昭和32年（1957）出版の中山伊知郎 他編「統計学辞典」が続いていることが判明しました。

【参考】杠文吉編「統計用語辞典」（国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能）
<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3023499>

まえがきで「…統計用語についての説明書は久しく待望されながら今日まで日本では、世に出ていない。このように不可能を可能にしようという大それた野心を敢て実現せんがためではなく、主としては、地方の統計実務家であって統計学を深く勉強する余暇をもたない人達に容易に統計用語の理解ができ、統計常識の涵養に役立ち得るならばと念願して、この書の編さんに着手した。」とされています。

2 杠文吉の統計関係の著作物

筆者は、杠文吉についての情報を持ち合わせていないことから、国立国会図書館デジタルコレクションで、杠文吉の統計関係の著作物を調べたところ次の3本がヒットしました。杠文吉と統計との関わりは、統計委員会事務局に在籍していたことが分かりましたが、それ以上は判然としませんでした。

著作物	左記著作物等での杠文吉の職名
①総理府統計職員養成所編「統計講座第9編 統計行政」（昭和24年（1949年）） 【メモ】 統計制度（日本統計制度史、統計組織）、統計法規（統計法制定の経過、統計法解説）について概説	前掲の「統計用語辞典」の巻末に「統計講座」の広告があり「第9編 統計行政」で「杠文吉（統計委員会事務局総務課長）」と表記
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/3033636 【参考】「統計講座」で検索	
②雑誌「統計」昭和48年（1973年）4月（テーマ 統計法 統計制度を再考する） 「現行統計法を再考する」 【メモ】 統計二法（統計法と後法である統計報告調整法）の統一を考慮すべきこと、時代の進歩に伴って再考を要する点（例：コンピュータ集計の委託も想定されることから秘密の保護、罰則について再考の必要性を指摘）などを指摘	記事の最後に「（日本特許情報センター常務理事）」と表記
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2780478/7 【参考】「現行統計法を再考する」で検索	
③雑誌「統計」昭和52年（1977年）5月（テーマ 統計法制定30周年） 「統計法制定のころ」 【メモ】 戦後の統計制度再建の動き、統計法制定の経過について紹介	記事の最後に「（元統計委員会事務局総務課長）」と表記
https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2780527/6 【参考】「杠文吉」で検索	

【参考】記載の URL は、国立国会図書館デジタルコレクション（※国立国会図書館／図書館送信参加館限定）で閲覧可能

3 杠文吉のプロフィール

杠文吉のプロフィールについて、インターネットで探索したところ、たまたま、統計数理研究所学術研究リポジトリのサイト「日本における統計学の発展 第17巻」（1981）で杠文吉へのインタビュー記事にヒットし、その記事の最後に同氏の略歴も掲載されていました。同資料のインタビュー記事の内容と略歴などに基づき、プロフィールをまとめてみました。同資料によれば、当時の統計委員会事務局局長は美濃部亮吉で、彼の友人の紹介で法律のプロパー（当時、統計委員会事務局には、経済のプロパーは在籍していましたが、法律のプロパーの人材がおらず、その確保が急務であったようです。）として、旧統計法の制定に際し、同局に勤務することになったとされています。

杠文吉 ゆずりは ぶんきち
(1911-2001)

明治44年（1911年）佐賀県生まれ。昭和11年（1936年）、東京帝国大学法学部（英法）卒業後、満州・金融合作社に勤務。引揚後、昭和22年1月統計委員会事務局の嘱託として勤務。昭和24年、統計委員会事務局総務課長、昭和27年行政管理庁長官官房秘書課長を経て、昭和31年、科学技術庁に異動し、同庁原子力局長、振興局長、科学審議官を歴任。昭和41年退官。）

【参考資料】前掲の「日本における統計学の発展 第17巻」、港南剣友会HP「研究会剣道座談覚書」…等
【画像】港南剣友会HP（©港南剣友会）

4 おわりに

戦後の統計制度の再建において、統計委員会事務局で法律のプロパーとして活躍した杠文吉の功績を後世に伝えたいと思います。

【あとがき】今回の調べもので、港南剣友会HPに掲載の杠文吉初代会長の画像に出会い、同会のご厚意により、その画像を本稿に転載させていただきました。剣道を通じて次世代を担う健全な青少年の育成を希求されていたことも分かり、感銘を受けました。